



## 第1回研究員会 学習会開催

UTY, CATVでも放映



4月16日（金）に教育センター第1回研究員会を行いました。梶原斉センター長より今年度の方向性について説明を行い、活動内容が確認されました。

会の後半では、富士山世界遺産センター・富士山科学研究所・町の防災課・ケーブルテレビ河口湖の皆さんに富士山防災などについて講演をしていただきました。この学習会では、富士山噴火に対する防災知識を子ども

たちにどう正しく伝えるかが大きなポイントになりました。17年ぶりに改訂されたハザードマップでは、富士河口湖町は富士山噴火の溶岩流が3時間以内に到達する「2次避難対象エリア」がこれまでよりも拡大され、被害想定が大きく変わりました。町の防災担当の渡辺大介さんから噴火が起きた際の避難ルートや避難するうえで危険な場所などを記した独自の防災マップを子どもたちに作成させるといったことが提案されました。町としては、防災学習に取り組む子どもを「町のジュニア防災士」として認定することなども検討しているということです。この内容はUTYでも放映されました。

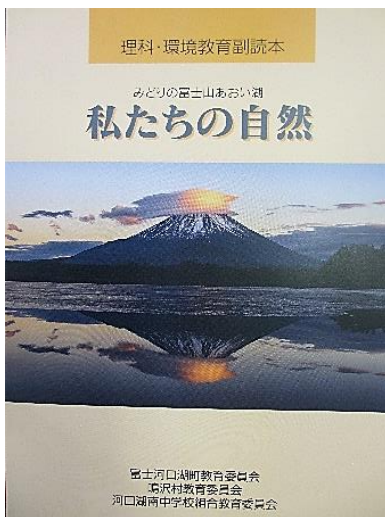
**ケーブルテレビ河口湖の放映は4/23~4/30 午後6時、午後11時、午前7時、午後0時**

町センターでは、今回の講演内容をもとに、ハザードマップ改定により明らかとなった新たなリスクを含めて子どもたちが防災についての知識を深めていけるよう関係機関や研究員の皆様のお力をお借りしながら一体となって研究を進めていきたいと考えております。

## 関係機関の積極的な活用を

充実した富士山学習を行うためにも、富士山世界遺産センターや富士山科学研究所など関係機関と連携していくことが重要になります。これまでも学校現場において講師をお願いしてきましたが、今年度もお願いすれば様々な場面で対応していただけます。積極的な活用をお願いいたします。





## 理科・環境教育副読本「私たちの自然」 教育課程に位置付けて

初版は2006年3月、その後4回の改定（小改訂版を含む）を行い、この度、第5版の発行となりました。この冊子は富士河口湖町と鳴沢村の児童・生徒が小学校5年生から中学校3年生まで使用できる理科・環境教育副読本として作成したものです。

今回の改定では、内容やデータ・写真を見直し、現時点での最新のものを掲載しました。特に第4章「考えよう!富士山と火山防災」については、富士山科学研究所の先生方のお力をお借りして大きく見直しを行うことができました。火山としての富士山について今まで以上に理解が深められるような内容になっています。この冊子は、理科だけでなく、総合的な学習の時間（富士山学習）や防災学習など、様々な学習においても役立つ内容になっていますので、教育課程に位置付けるなどして大いに活用していただきたいと思っております。

### 【教育相談のご案内】

#### 『困っていること 悩んでいること 相談してみませんか』

新年度が始まって3週間が経過しました。入学や進級によって環境が大きく変化した子どもたちも多くいるのではないのでしょうか。大人も子どももスタート時はかなりの体力と気力が必要です。気持ちも新たにスタートしたはずなのに、分からないことや初めてのことが多く、気づかないうちに疲労やストレスがたまってしまったということも少なくありません。子どものなかには環境の変化に弱かったり、ストレスをうまく発散できなかつたりして、つらい気持ちを誰にも話せずにとんとんため込んでしまう子もいます。周りの大人が気づいたら、早めの対応をしていくことが必要です。

教育センターでは、保護者の悩みを受け止めたり、アドバイスをしたりするだけでなく、児童・生徒の相談相手になったり、学習支援を行ったりしています。

悩みは、人に話すだけでも心が軽くなります。子どもの心のSOSを察知したらお電話ください。秘密は厳守いたします。

○時間帯 「月曜日～金曜日 午前9：00～午後4：00」

○場所 「富士河口湖町中央公民館1階 教育センター」

○対象 「お父さん・お母さん・子どもさん・おじいさん・おばあさん・先生」